



川西中学校区小小連携 連合修学旅行 左:事後の「なかよし集会」 右:修学旅行本番 説明は5ページで

巻頭言『「居心地のよい学級づくり」と「愛着」形成』

学校教育課長 細木久成

子どもの発達には「愛着」の形成が重要だということは、心理学、生物学、脳科学等様々な分野で研究され、証明されています。アメリカの心理学者ハリー・ハーロウの研究では、愛着は幼児期の母（養育者）の温かいスキンシップによって形成されるとしています。スキンシップによって安心感（自信・自尊心）を得ることができた子どもは、新しい環境や対象を探索することにチャレンジすることができるそうです。つまり、いつでも自分を受け止めてくれる安心できる場所、たとえ失敗しても怖くて逃げ出しても全てを受け入れてくれる「居心地のよい場所」があれば、困難な課題や新たなステージにチャレンジすることができるということです。

今年度から、市内小中学校ではWEBQU（学級満足度調査）を活用した「居心地のよい学級づくり」に取り組んでいます。この取組は、客観的な調査結果から、具体的な学習支援や生徒指導の手立てを講じ、学力の向上、不登校・いじめの減少、特別支援教育の充実を図る事業です。また、十日町市小中一貫教育の共通取組事項は「自己有用感を育む」ことです。自己有用感は人と人との関わりの中で認められ受け入れられることによって育まれていきます。私はこれらの取組が、前述した「愛着」の形成とよく似ていると考えます。居心地のよい学級は、時には失敗をしてしまうことのある自分でさえも認め、全てを受け入れてくれる安心感を与え、仲間とともに困難な課題や新たなステージにチャレンジすることができるバックボーンになるはずです。

自信をもって十日町市の小中一貫教育を推進していきましょう。

十日町市で小中一貫教育の導入が検討された平成19年ごろと現在の不登校児童生徒数比較です。

学力テストについては4ページのグラフ「年度ごとの学年集団のNRT教科総合偏差値の推移」を参照してください。

小中一貫教育

■ 一日異校種体験研修スタート

一日異校種体験研修は、小学校と中学校の先生方が、相互理解を深め、9年間を見通した一貫性ある指導を行うために実施してきました。小中一貫教育がスタートした当時は、学力テストの数値が小学校高学年で頭打ちとなり、中学校に入ると急激に低下することや不登校の児童生徒が小学校6年生から中学1年生で2～3倍に増加するなどいわゆる中一ギャップが問題となっていました。小学校と中学校で児童生徒の発達段階の違いもあり風土や文化が違うことは当たり前のことですが、その違いを先生方が理解した上でつながりをよくしたいということで取り組んできた研修です。

これまでの各中学校区の先生方のご努力により、中一ギャップも少しずつ改善されてきていますが、これからも大切にしていきたい研修です。

今年度の1日異校種体験研修の受講者は30名(校長2名、教諭27名、養護教諭1名)です。

■ 一日異校種体験研修レポート

十日町中学校の本間紀明先生が7月6日に東小学校の5年生担任の富井明美先生とTTで行った外国語の授業を参観してきました。

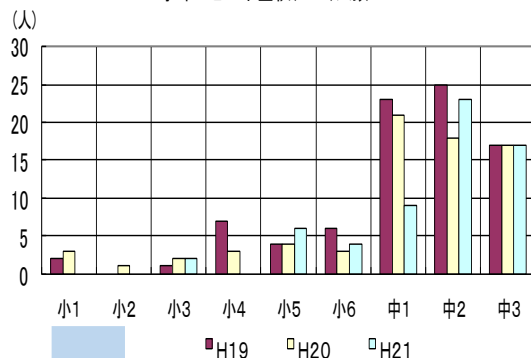
子どもからの質問コーナーでは、「前職は?」「年収は?」といった個人的な質問から始まり、「中学校ではどんな英語の勉強するの?」「英語がうまくなるのには?」といった授業の質問までありました。「英語がうまくなる秘訣は失敗や間違えることを恐れないこと」という本間先生の回答に子どもたちは納得した様子でした。その後も本間先生が中学生と一緒に授業で歌っているビートルズナンバーの弾き語りや富井先生とメインとサブがうまく入れ替わる楽しい授業などもりだくさんでした。

子どもたちの反応は「楽しかった」という声がたくさん聴かれ、中学校での英語学習に対して期待が膨らむ様子が感じられました。また、本間先生からは「子どもたちの反応がよくて驚いた」というものでした。

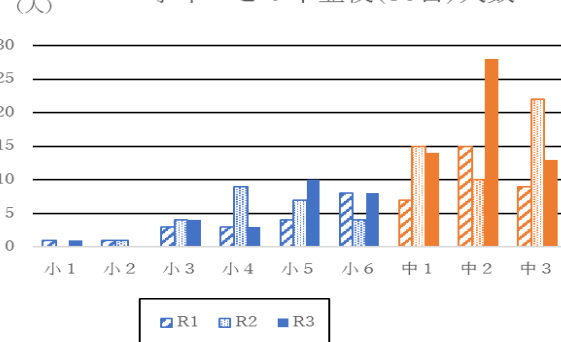
授業後、本間先生に「小学校の先生方をお願いしたいことは?」と尋ねると「小学校の授業で取り上げられる英単語は中学校の教科書では知っていて当然という扱いです。そういった英単語には小学校の内に慣れ親しむようにしてほしい」ということでした。

そんな教員同士の情報交換や授業を通して子どもたちと十分に触れ合うことのできる研修にしてほしいと思います。

学年ごとの不登校(30日)人数



学年ごとの不登校(30日)人数



教育相談班より

「不登校・いじめの減少」に向けて

いじめ防止対策研修会 5月19日（木）川西庁舎

講師に中越教育事務所学校支援第2課の佐藤指導主事をお招きし、校長先生方を対象とした研修を行いました。今回は、いじめ認知後の対応について、事例を元にした演習が中心でしたが、グループワークを通して様々な考え方や取組を共有することができ、実感を伴った学びとなりました。



なお、県教委では、法令理解の自己点検『正しい「いじめ」対応のためのチェックリスト』令和4年度版を作成しました。ぜひ校内研修等で定期的なチェックを実施し、職員全体の法令理解を積極的に進めていただきたいと思います。

「特別支援教育の充実」に向けて

第1回特別支援教育研修講座 6月2日（木）千手中央コミュニティセンター

ふれあいの丘支援学校の村山先生より、「個別の教育支援計画・個別の指導計画」についてご講義いただきました。特に、個別の指導計画の作成を中心とした演習を行いました。個別の指導計画に決まった様式はありませんが、ふれあいの丘支援学校で実際に活用されている様式を用い、手順に沿ってポイントを押さえながら進めていただきました。今後、自校の様式及び作成に反映させていただけると幸いです。



なお、「**個別の教育支援計画・個別の指導計画**」は、以下の場合に作成・活用が求められていますので、校内での作成・活用状況をご確認ください。

- ☐ 特別支援学校に在学する児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ☐ 特別支援学級に在籍する児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ☐ 通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ☐ 通常の学級に在籍している障害のある児童生徒（通級指導は受けていない）・・・作成・活用に**努める**

特別支援学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習について

交流及び共同学習を実施するに当たっては、特別支援学級に在籍している児童生徒が、通常の学級で各教科等の授業内容が分かり学習に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしていることが重要です。交流及び共同学習の目的は次の二つの側面があります。

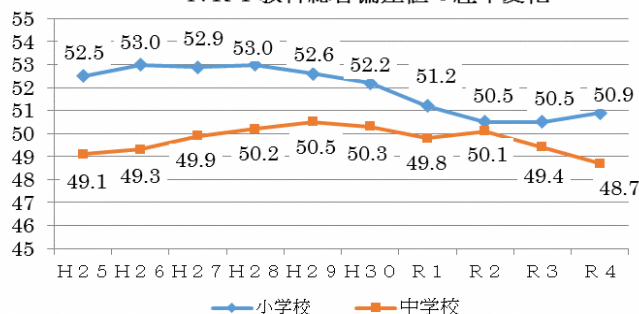
- ① 相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする **交流の側面**
- ② 教科等のねらいの達成を目的とする **共同学習の側面**

各校においては、「交流」のみに重点が置かれた交流及び共同学習にしないよう、当該児童生徒を担当する教員等が適切な指導を行いながら実施するよう、一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援体制を工夫していただきたいと思います。

学習指導班より

NRT標準学力検査の結果から

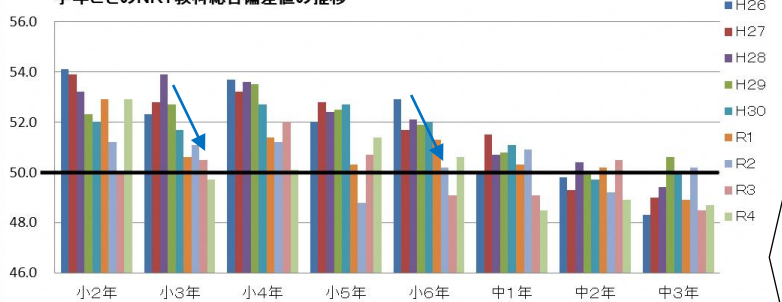
NRT教科総合偏差値の経年変化



【小学校】 向上傾向です。この伸びを維持していくと目標値に近づきます。児童の学力向上に向け、引き続き取組を推進してください。

【中学校】 令和3年度と同様に総合偏差値は50を下回るとともに、H25以降で初めて49を下回りました。より一層、学力向上を推進していく必要があります。

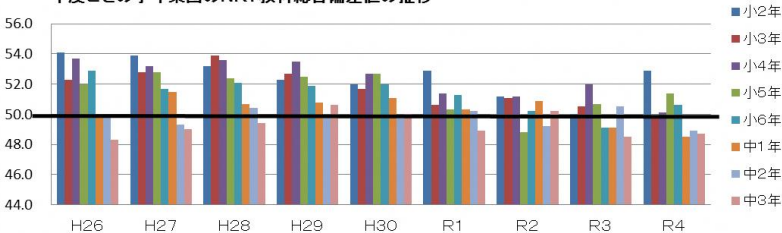
学年ごとのNRT教科総合偏差値の推移



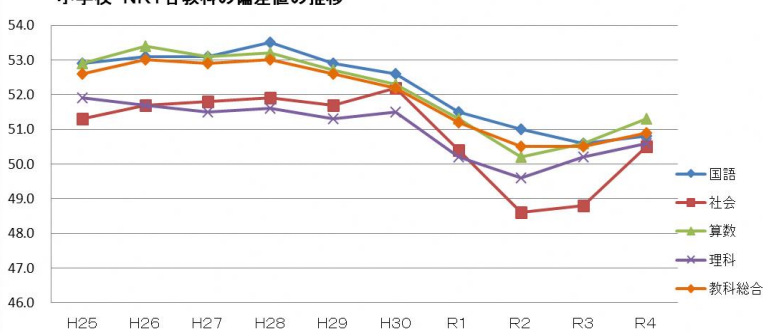
小3・6と中1の下降傾向が大きいことから、小2・5・6年の学習内容の定着が課題と言えます。

また、平成までは53.0以上だった小学2～4年でのポイントの低下が、総合偏差値の低下につながっており、小学校低学年での学習内容の着実な定着が、引き続きの課題です。中学校においては、50を下回る年が多く、小学校での学びを生かし、学力の定着を図る必要があります。

年度ごとの学年集団のNRT教科総合偏差値の推移



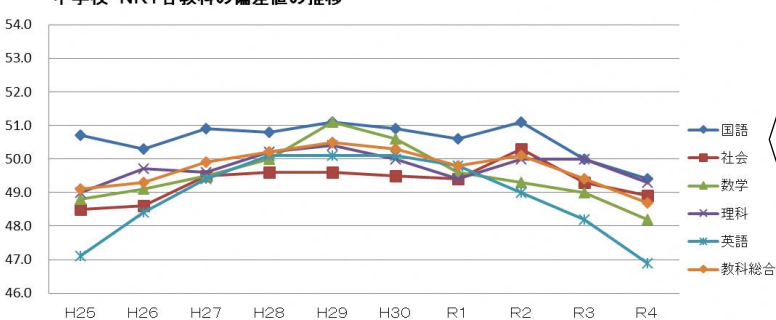
小学校 NRT各教科の偏差値の推移



【小学校】

全教科において、昨年度より向上している傾向が見られ、社会の学力の向上が顕著です。国語や算数の力が高いことが、少なからず他教科の学習内容の定着に影響している可能性があります。

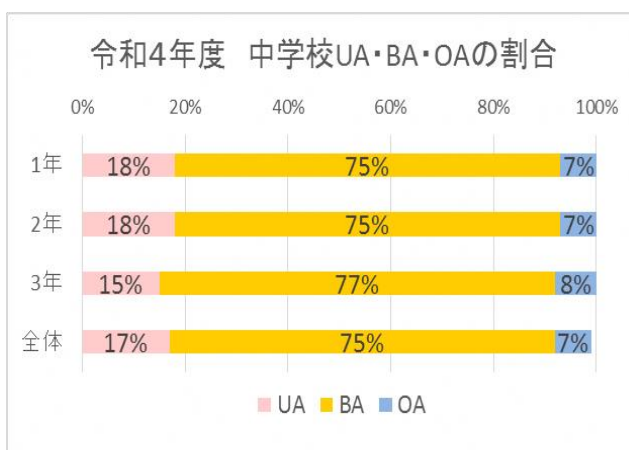
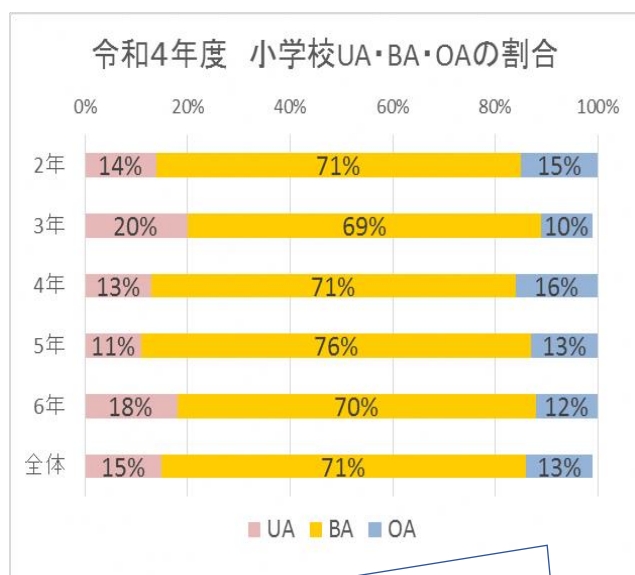
中学校 NRT各教科の偏差値の推移



【中学校】

全教科において、学力の低下傾向が続いています。特に英語は、授業改善に取り組んでいますが、ここ5年間の課題となっています。

全体的な底上げが必要です。



※中学校は、知能との相関を算出していない学校もありますので、あくまでも参考値として見てください。

令和5年度のNRT調査でUAの割合を16%と以下にするという目標も1つあります。小学校全体では15%と目標値を上回り、中学校全体でも目標値に近い割合です。全生徒が力を発揮できるように支援していきましょう。

NRT 学力検査の結果のみが学力のすべてではありませんが、NRT を始めとする各種学力検査の結果は、児童生徒の学力の定着の様子と自分の授業を改善するためのヒントを得る上で、重要な指標です。

市の結果を参考にしながら、各校で結果を丁寧に分析して、自校の課題を学年・学級ごとに明確にし、授業内外で具体的な方策を講じてください。その際、WEBQU の活性度の結果を参照（担任画面「全体項目比較」のタグを押下するなどの操作を行う）することも、具体的なアイデアを検討する一つの指標です。データを活用し、2学期以降も引き続き、学級づくりと授業づくりを推進してください。

【表紙写真の説明】

7月7日（木）、8日（金）の2日間、川西中学校区の3つの小学校（千手小・上野小・橘小）の6年生53名が下越方面への連合修学旅行を行いました。事前に1回目の「なかよし集会」を実施し、学校の枠を越えた活動班の仲間と初めて顔を合わせました。その仲間と過ごした2日間。川西地区とは異なる環境に驚き、楽しみ、そして学びました。修学旅行を終えて1週間後、2回目の「なかよし集会」を実施しました。活動班の仲間との距離がぐっと縮まった温かい雰囲気の中で修学旅行の振り返りが行われました。（川西中学校へ向けてのスタートが切られた瞬間です）

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
8月 3日 (水)	第3回特別支援教育研修講座 「通常の学級における発達障害児の理解と支援」 【千手コミセン】	講師：千手小学校（発達通級指導） 教諭 西潟 浩子 様 十日町中学校（発達通級指導） 教諭 廣田 稔 様 対象：通常の学級担任、他
8月 4日 (木)	居心地のよい学級づくり 全員研修会③	Zoom オンライン
8月 5日 (金)	都市事務職員研修（情報館）	
8月18日 (木)	初任研ボランティア体験研修（キョロロ）	
8月19日 (金)	英語・外国語活動授業力養成講座	
8月22日 (月)	第4回特別支援教育研修講座 「指導技法・学習の支援」 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 教頭 秦野 真一 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
8月22日 (月)	イングリッシュキャンプ（千手コミセン）※希望者	小学5・6年のみ（AM）
8月23日 (火)	不登校対策研修会 【川西支所】	講師：中越教育事務所 指導主事 長谷川 成生 様 対象：校長・教頭
8月25日 (木)	イングリッシュキャンプ（千手コミセン）※希望者 → 実施なし	中学生（AM）の部は実施しません。
9月 5日 (月)	小学校外国語サポート訪問（橘小）	
9月15日 (木)	小学校外国語サポート訪問（十日町小）	
9月16日 (金)	中学校重点教科訪問（松之山中）	主催：中越教育事務所
9月21日 (水)	小学校外国語サポート訪問（西小）	
9月22日 (木)	第5回特別支援教育研修講座 「動きの気になる子への指導・支援」 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 教諭 金森 史子 様 発達支援センター 作業療法士 宮内 恭子 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
9月27日 (火)	中学校重点教科訪問（川西中）	主催：中越教育事務所